

中国自然歩道 旧参道

今では一部が雑草に覆われ分かりにくいですが、むかしこの道は大山寺への参道であった。道がまだ損なわれていない頃は境内への正門であった金門とその先の大山寺の本堂である大智明大権現堂へと続いていた。1875 年に明治政府が神仏分離政策を実施するまでは、大山でも神道と仏教寺院は物理的に分けられておらず、大山寺の本堂も丘の上にあった。1875 年以降は大神山神社が丘の上に建ち現在に至る。

旧参道に沿って小さな道が枝分かれしており、かつて中心地として隆盛を極めた子院や僧房へと続いている。この道は、むかしは地藏菩薩を参拝するために馬や牛を引く農夫や多くの人々が行き交った。このためここは国で最大規模の家畜市場でもあった。

しかしドラマチックな出来事が起こり、旧参道は使われなくなってしまった。本堂建設中に、山側のかかなり狭い割れ目である金門の断崖が道をふさいだ。僧侶たちが道を広げようとすると、空が開いて大雨が山に降り、ほとんどの道を洗い流してしまった。かつては重宝されたこの道も、今はほんの数段の石段しか残っていない。